

# 「学ぶ」は一生の宝 生涯学習の ススメ



本学園大学で取り組む生涯学習プログラムをご紹介します。このコーナー。今回は昨年から冬にかけて行われた2つの公開講座の模様をレポートします。

## 公開講座 レポート①

### 子どもの心と ウエルビーング(しあわせ)①

「今どきの子どもはヘン？」

発達障がいを抱える子どもの「本当のこと」が明確に

10月1日(土)、筑紫女学園大学・短期大学部において、公開講座「子どもの心とウエルビーング(しあわせ)①」(今どきの子どもはヘン?)が開催されました。講師は本学人間科学部人間科学科人間関係専攻の酒井均教授です。

本講座では主に、からだ、五感、脳、こころの4つの観点から、今どきの子どもについて酒井先生にお話しただきました。

お話の中で、私がまず驚いたのは、今の子どもには感覚過敏または、鈍麻のせいで人にぶつかっても気づくことができなかつたり、少し当たっただけでも叩かれたと感じてしまう子どもが多くなってきたこと。このような症状は、今どきの子どもだけでなく、親にもあるということです。人と直接触れ合うという行為を幼い頃に経験していなかったため、他人に触れたり触られることが苦手となり、親になつて自分の子どもを抱くことが苦痛となる人さえいるという現実も、この講座

で初めて知りました。

また、私たちが思う以上に発達障がいを抱える子どもが身の周りにたくさんいること、さらに発達障がいは疑や育て方の問題ではなく、子ども自身が生まれ持ったものであるとも話されました。だからといって、仕方ないで済まされる問題ではありません。そこから、発達障がいというものをきちんと正しく理解しようとする姿勢が大切であると私は学びました。

今の子どもたちは、からだ、五感、脳、こころなど、どこかに歪みや偏りがあることが多いようです。そのことについて子ども自身や、その子どもの親が困っていたとしたのなら、私たちは、正しい知識の元に子どもに対する対応の仕方を考え、周りの環境などを調節していくことが大事であると思いました。

講義の中に出てくる具体例が身近のものであったため、参加者全員がすんなりと理解しやすい内容でした。この講座から学んだことを、将来、親になつたときやそれまでの過程で生かしていきたいです。

【天文学部】  
日本語・日本文学科2年 宮田 佳奈

## 公開講座 レポート②

### 今、求められる教育とは

「小学校、就学前教育、家庭、地域の役割」

幼稚園や保育所関係の方々に多数お集まりいただきました

11月5日(土)、筑紫女学園大学・短期大学部では、公開シンポジウム「今、求められる教育とは」(小学校、就学前教育、家庭、地域の役割)を開催しました。本学には今年度、人間科



学部が開設され、その中の専攻のひとつ「人間形成専攻」では、子どもの保育と初等教育に貢献できる人の育成に取り組んでいます。そのような中、今回のシンポジウムでは、教育現場での幅広い経験を持つ本専攻所属教員が「保育者」「小学校教師」「小学校管理職」「筑紫女学園大学教員」という4つの立場から、それぞれが

大切にしたいと思っていること、これからの課題などを提案し、「今、求められる教育」について考えました。参加者は幼稚園・保育所関係の方が多く、家庭との関わりや幼少期の子どもたちの育ちなどについて課題をもたれていることが分かりました。その他に、「発達障がい」についての質問や、我が子がいじめにあつた経験からの意見などもあり、大変有意義なシンポジウムとなりました。

【天学人間科学部】  
人間科学科人間形成専攻/准教授  
稲田 八穂

## 公開シンポジウム 「今、求められる教育とは」概要

- シンポジウム・コーディネーター 板井 修一 (教授・人間科学部長)
- 話題提供・シンポジスト
  - ・乳幼児にたいせつに育てたいこと/大元千種(教授)
  - ・育てられて育つ子どもたち/稲田八穂(准教授)
  - ・小学校で求められている教師とは/手嶋俊明(教授)
  - ・21世紀が求める保育士や教師の像と  
筑紫女学園大学の教育/牧野桂一(教授・専攻長)